

令和6年度 1年生キャリアフォーラム「3DCG×医療=?」



1年生を対象に、キャリアフォーラムを実施しました。「3DCG×医療=?」という演題で、東京大学医学部医学科卒の医学博士であり、株式会社サイアメント代表取締役社長の瀬尾拓史先生に、「3DCG と現在のお仕事」「3DCGに興味を持つきっかけと小中高の学生時代」「中高生時代の勉強が、将来どのように役立つのか」などについて90分間、ご講演いただきました。

以下に生徒の感想を一部掲載いたします。

- 私の心に残った言葉は、「切磋琢磨できる仲間を見つけることが大切だから、レベルの高い大学を目指すべきだ」という趣旨の言葉です。私もレベルの高い仲間を見て頑張ろうと思えることがあるので、その言葉をモチベーションにして勉強を頑張りたいと思いました。(食物科生徒)
- 医療の3DCGと日常の3DCG(テレビゲーム)を対比して、自分の分野に取り組んでいくという柔軟な考え方・発想が大切なのだなと思いました。私の以前の考えでは頭のいい人は思考が固くなったり、視野が狭くなったりするのかなと思っていたのですが、幅広い知識と広い視野、この2つが組み合わせられると無限の発想を得られるのだと思いました。そのために、広い視野を保ちつつ知を深めていきたいと思いました。(理数科生徒)
- この講話を受けて私が1番大事だと思ったのは素直さです。自分の興味のあること、自分の感じたことを素直に受け止めることで、本当に自分の興味があることについて深く学べると思いました。(普通科生徒)
- 瀬尾さんは医療から映像の分野へいったのではなく、身近で自分の好きな映像を追求した結果、医療分野へ行って成功したそうで、好きなことの追及の大切さを感じました。僕はまだ、大好きなことがあまりないので、いつできるかがわからないから、出来たらいつでもできる環境づくりをしたいと思いました。(普通科生徒)
- 僕はこの講演をきいて、身近なことに疑問をもつこと、不満をもつことの大切さを知りました。僕はあまり、普段の生活で不満をもつことはなく、普通に快適に生活していました。でも、みんなが現状に満足するだけでは、世界はもう向上しなくなるということに気付かされました。満足することは悪いことではありません。でもすべてを受け入れてしまうと、世界が革命的な変化がなくなってしまうのです。そのため、自分の好きな物・分野にこそあえて不満や疑問をもつことで、大きな発見や小さな発見を自分の考えに大きな変化をもたらしてくれる、ということが、起こるかもしれない。考えを変えることができる環境に立つことができるというのが自分の努力で起こるので、努力の方向性が定まったし、自分がどう生きるかを再確認できました。(普通科生徒)

2024年10月9日(水) 7限